

那珂市の自転車利用における現状と課題

上位・関連計画	■いばらき自転車活用推進計画	○目指すべき将来の姿：誰もが安全・快適に自転車を活用することができる地域社会の実現 施策目標：①サイクルツーリズムの推進による地域の活性化 ②自転車交通の役割拡大に向けた自転車通行空間の整備 ③自転車事故のない安全で安心な社会の実現 ④自転車を活用した県民の健康増進
	■いばらきサイクルツーリズム構想	○目指す将来像：国内外からのサイクリストが何度も訪れたい魅力ある「サイクリング王国いばらき」の実現 モデルルート：奥久慈里山ヒルクライムルート（県内最高峰・八溝山の山頂や里山の風景を巡るチャレンジルート）
	■第2次那珂市総合計画	○市の将来像：人と地域が輝く安心・安全な住みよいまち 那珂 まちづくりの基本理念：①すべての人が安心して住み続けられるまちを目指します ②共に助け合い支え合う、すべての人にやさしいまちを目指します ③すべての人が輝く、賑わいのあるまちを目指します
	■第2期那珂市まち・ひと・しごと創生総合戦略（策定中）	○基本戦略：4 時代にあった地域の創造戦略 （1）「住まい☆すまいる」いい那珂づくりプロジェクト 自転車によるにぎわいづくりと健康づくり
	■可能性への挑戦—那珂ビジョン—	○基本方針：Ⅲ活力ある未来への「投資」 （1）那珂市の地の利を活かした取組みへの投資 市のポテンシャルを最大限に活かしたサイクルツーリズムに取り組む
	■那珂市都市計画マスタープラン	○都市づくりの理念：機能的な都市環境と豊かな自然環境を生かした生活文化都市づくり 分野別方針：4 交通ネットワークの充実に関する方針 （4）自転車・歩行者ネットワークの充実
	■第2次那珂市環境基本計画	○環境将来像：市民一人ひとりと地域コミュニティがつくるひとと自然がやさしくふれあうまち 環境目標：2 低炭素社会づくりの推進
■那珂市健康増進計画	○基本理念：健康寿命の延伸 取組項目：2 生活習慣及び社会環境の改善 （4）身体活動・運動 ⇒ 運動習慣を有する市民の割合の増加	

現状	■通学状況	○市内中学校5校の自転車通学率は、第四中学校を除く4校で9割以上、ほぼ全員が自転車により通学 ○市内高校2校では、両校あわせて700名以上の生徒が自転車を利用
	■自転車関連事故の発生状況	○事故者において、19歳以下が4～6割と高い割合 ○対自動車との事故、交差点内での出会い頭の事故の発生率が高い
	■施設立地状況	○図書館などの公共施設や民間商業施設の多くが、菅谷地区、瓜連地区に立地 ○小中学校のほか、県立高校2校、私立大学1校が立地するなど、多くの教育施設が五台地区に集積
	■健康状況	○全国や県と比べて、「がん」「心臓病」などの生活習慣病の発生率が高い ○日頃からスポーツを行っていない割合が約半数（H30市民アンケート）⇒行っているスポーツ：自転車8.6%。
	■鉄 道	○市内にJR水郡線が通り、後台、下菅谷、中菅谷、上菅谷、常陸鴻巣、瓜連、静、南酒出、額田の9つの駅が存在。（9駅のうち6駅で屋根付き駐輪場が整備済、駅駐輪場（9箇所）の過去3年間（H28～30）の放置自転車撤去台数の平均60台）
	■観光、地域資源など	○市の観光入込客数は、近年減少傾向 ○地域資源は社寺、白鳥飛来地、茨城県植物園、静峰ふるさと公園、カミスガなど ○ハーフセンチュリー茨城大会の開催地 ○サイクルツーリズムに特化した施策がない

アンケート調査等	■市民アンケートの結果	○ <u>自転車所有者の半数以上は「安全対策をしていない」</u> ○「 <u>自転車安全利用五則</u> 」は、「知っているが内容は理解していない」又は「知らない」が約6割 ○自転車に乗っている時や自転車との間での危険な経験が「ある」が半数以上。具体的には、「車道を走っている時の車の追い越し」が3割 ○ <u>自転車に乗っている人を見て「危険だな」と思うことが「ある」が9割以上。具体的には、「携帯電話を操作しながらの運転」が5割</u> ○ <u>自転車保険に「加入している」との回答は4割弱</u> ○自転車を利用する範囲は、「2km以内」、往復「30分以内」など、多くの人が近距離の移動に活用 ○回答者の7割以上が自転車を所有しているが、このうち「ほとんど乗らない」が6割 ○交通手段は「自分で運転する車」又は「家族が運転する車」が8割以上、「自転車」は約8%と少ない ○日常生活の中で自転車を利用してみようと「思う」が半数以上。自転車利用に対する関心は比較的高い ○日常生活の中で <u>自転車を利用してみようと「思う」理由は、「健康的だから」が7割以上</u> ○自転車を利用してみようと「思わない」人でも「安全な自転車空間ができれば利用する」が約3割 ○日常生活の中での <u>自転車の利用促進に必要な施策では、「主要な道路に自転車の通行空間を確保」が7割弱</u> ○市内及び周辺で、サイクリスト向けに紹介したい場所は、「久慈川沿岸」「那珂川沿岸」の河川敷が多く、そのほか「静峰ふるさと公園周辺」「笠松運動公園周辺」など ○ <u>観光や交流の面でサイクリングの振興に必要な施策は、「サイクリングコースの整備」、「自転車通行帯の整備」、「サイクリングコースに関する情報発信の強化」など</u>
	■高校生アンケートの結果	○ <u>ヘルメットの着用率は約5%</u> ○走行位置について、車道・歩道の「交互」走行が半数以上で、「主に車道」が約2割弱
	■小・中学生クイズの結果	○ <u>走行位置（車道、歩道）に係る設問で正答率が低い</u> ○ <u>ヘルメットに係る設問で正答率が低い（中学生）</u>
	■サイクリストアンケートの結果	○ハーフセンチュリー参加者の9割近くが市外からの参加 ○ハーフセンチュリーの走行コースの満足度は、走りやすさ、コースともに高い ○大会参加にあたって、 <u>観光地、飲食店、お土産屋のいずれも立ち寄らない方が多い</u> ○ <u>サイクリングをするにあたり期待するものについて、「食事場所(グルメ)」、「サイクリングイベント」、「HP等の情報媒体」、「サイクルサポートステーション」など</u>

課題の整理	日常生活・心身の健康	自転車利用環境	サイクルツーリズム・交流
	<ul style="list-style-type: none"> ● 自転車交通ルールの普及・遵守 ● ヘルメット着用等の安全対策の徹底 ● 自転車損害賠償保険の加入促進 ● 自動車への過度な依存からの脱却と交通手段としての役割拡大 ● 気軽に取り組める心身の健康づくり ● 運動不足の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全で快適な自転車利用空間の創出 ● 誰もが気軽に自転車を利用できる環境の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内周遊の仕掛けづくり ● 観光における市内9駅の有効活用 ● 観光に関する情報発信力の強化

